

令和6年度 島根県立出雲商業高等学校 学校評価 (No. 1)

教育目標	重点目標等	担当	目標達成のための方策	評価項目	評価値の 元データ	R6			評価	自己評価	改善策	学校関係者評価		
						平均	% or 数値	評価				評価	コメント	
<p>『自立・自律できる人間の育成』</p> <p>③地域や人を愛し、自己有用感・自己肯定感を抱ける生徒の育成</p> <p>②ビジネスマナーやコミュニケーション能力を身に付け、他者と共同できる生徒の育成</p> <p>①課題発見・解決のために主体的に考え行動できる生徒</p>	学習の基盤となる資質能力の育成	教務	・主体的に考え、学ぶことのできる生徒の育成	・学力や専門性が高まるよう主体的に学んでいる生徒の割合	生徒アンケート1	2.9	75	B	A	<p>・定期試験や検定に向けて専門性が高まるよう意識して取り組んでいる様子がうかがえる。一方、日常的な学習に取り組んでいない生徒が一定数いる。【教務】</p> <p>・生徒育成委員会や、担任が副担任や学年付きの先生方や教科担当と担任など個別の共有は各教員が行っていたが「教科担当者会」などの共有の場を設けて議論する機会が少なかった。その結果、連携不足と感じる教員が多かったように思う。【学年】</p> <p>・基礎学力の向上について、教科担当と担任が個々の生徒の情報共有や必要な支援についてしっかりと情報共有を行い連携できた。学習の支援が必要な生徒に対して、長期休業中や放課後などを利用した早期の対応が不十分であったと感じている。【学年】</p> <p>・『校則や学校・クラスのルール・マナーを守っている』について、生徒の回答はAに対して、保護者や教職員の回答はBであり、規範意識の向上が必要と考える。【生徒】</p> <p>・「読書習慣を確立する」は概ね高い評価を得ることができた。【図書】</p>	<p>・日常的に学習する仕掛けを全教科で考えて取り組む必要がある。単元テストの有効な活用も検討する必要がある。【教務】</p> <p>・担当者会や拡大学年会を開き情報共有をもっと密にするべきだった。【学年】</p> <p>・生徒と個人面談の回数増加や担当者会などの共有の場を設けて生徒が必要としている支援を把握する【学年】</p> <p>・定期考査や小テストの結果をもとに学習の遅れを早期に把握し、適切な支援につなげる。放課後や長期休業中の補習を充実させ学力の向上を図る。【学年】</p> <p>・頭髪服装検査の頻度をすでに今年2月から各学期に1回ずつ増やすこと、生活安全委員が検査に関わることで、意識の向上を図る。【生徒】</p> <p>・朝読書の取り組みをよりよくするため、学年部とさらに連携する。【図書】</p>	A	<p>・生徒が主体的に学習に取り組んでいることや、社会人としてのマナーや身だしなみふるまいを身につけさせること、自己肯定感の醸成を図ることについて、一部の項目で低い評価がみられるが、基礎学力の向上、主体的に行動ができるように学習面をはじめ、出商デパート等の学校行事などにおいて精力的に励んでいる。</p>	
				・生徒の学力向上に向け、適切かつ効果的な指導・支援を行っている割合	教員アンケート9	2.9	81	A						
			・教科担当と連携した基礎学力の向上	教員アンケート10	2.7	64	C							
			・社会人として通用する挨拶マナー・身だしなみ・ふるまいの習慣化	・校則や学校・クラスのルール・マナーを守っている	生徒アンケート13	3.5	92	A						
				・登下校時、交通ルールや自転車マナーを守っている	生徒アンケート14	3.6	95	A						
				・生徒は、校則や学校・クラスのルールやマナーを守って生活している。	保護者アンケート12	2.9	71	B						
			図書	・読書習慣を確立する。	・服装・頭髪指導等によって生徒の身だしなみが整っていると考える教員の割合	教員アンケート18	2.7	70						B
					・自転車点検や交通安全街頭指導により交通ルール・マナーが向上していると考えられる教職員の割合	教員アンケート21	2.9	89						A
					・朝読書にしっかり取り組んでいる生徒の割合	生徒アンケート19	3.1	76						B
		全	・全ての活動により自己有用感の醸成を図る。	・出商デパートや学園祭などの学校行事において、自分は人の役に立っていると思う生徒の割合	生徒アンケート31	3.1	80	A						
				・学校生活で自分の長所を伸ばす・増やすことができたと感じる生徒の割合	生徒アンケート29	3.0	76	B						
		③確かな人権感覚の涵養	人権教育	・人権意識を高揚させ、心身ともに健康で文化的な学校生活を送れるようにする。	・人権に配慮した言動をしている生徒の割合	生徒アンケート24	3.2	82				A	B	<p>・生徒による評価は良好であるが、保護者による評価はかなり低い。</p>
・学校生活の中で自分の人権が守られていると感じる生徒の割合	生徒アンケート25				3.2	80	A							
・本校が人権を尊重する心と態度を身に着ける人権教育を推進していると考えられる保護者の割合	保護者アンケート10				2.5	54	C							

		④人格形成の場としての生徒会活動・部活動の推進	生徒	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会活動を見直し、活性化させる。 部活動への積極的な参加を促し活性化させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会・各種委員会が積極的・意欲的に活動していると感じる生徒の割合 生徒会・各種委員会が主体的に文化祭・体育祭等の行事に取り組むための指導・支援と感じる教員の割合 部活動や生徒会活動に積極的に参加・活動できるような環境作りをしていると考える保護者の割合 部活動に積極的に行っているとする生徒の割合 	生徒アンケート16	2.9	72	B	B	『部活動に積極的に取り組んでいる』と答えた生徒の割合は高いが保護者は低い。また、生徒会・各種委員会については生徒・保護者ともにBである。全ての生徒のニーズに応じることは難しいが、おおむね評価できる。	生徒会や各種委員会の活動について、『例年通り』ではない活動を検討していく。	B	
身につけさせたい資質・能力の育成	①主体的・協働的・創造的な探究学習の推進	教務 商業魅力	<ul style="list-style-type: none"> 主体的、対話的で深い学びの実現を目指し、研究に努める 地域の特徴を理解させ、探究活動を通じて問題解決能力を育成する。 各学年において目標を定め、3年間を通じた育成を図る。 	主体的、対話的で深い学びを意識した授業を展開した教員の割合	教員アンケート14	2.9	86	A	B		<ul style="list-style-type: none"> 日々の授業の中に、主体的、対話的で深い学びを意識して、日々の授業に取り組んでいただいている。【教務】 探究αでは、基礎的な情報収集能力、活用能力などのミニ探究を通して探究の基盤づくりができた。それをベースにβでは地域課題に焦点を絞った地域に目を向けた探究活動をすすめることができた。【魅力】 	<ul style="list-style-type: none"> 県が主催する協調学習の研修会への積極的な参加や、校内授業公開を通して、ICT機器の活用や主体的、対話的で深い学びについて今後とも研鑽を積み続ける必要がある。【教務】 探究活動において生徒がさらに主体的で意欲的に活動できるよう、教員の支援の在り方を見直し適切な指導体制について検討する。【魅力】 	B	<ul style="list-style-type: none"> 探究学習βでは幅広い大人とふれあい、出雲市の課題について考え、出雲市をより魅力的にしようとしているところは今後もすすめてほしい。 生徒の図書館活用の評価が低いので、改善のために高校生が図書室に足を向けやすしたり、入りやすしたりする工夫をしてほしい。また、探究学習で使うような本、資料集、写真集、雑誌なども揃えると探究学習のために図書館を活用したり、探究学習の活用がすすんだりするのではないだろうか。
				1年生：「α」の授業で、探究的な学びの基礎が身についたと感じる生徒の割合	生徒アンケート26	2.9	68	B						
				2年生：「β」の授業において地域の現状や課題に興味・関心を持ち意欲的に取り組むことができたと感じる生徒の割合	生徒アンケート27	3.1	73	B						
				「課題研究」の授業において課題解決型の学びや探究的な学びにより自己の成長を感じている生徒の割合	生徒アンケート28	3.2	80	A						
	②学習内容と指導の充実	教務 1年2年 図書	<ul style="list-style-type: none"> 日々の授業の教材研究を充実させる クロームブック等ICT機器を活用し、生徒の学びを深める 図書資料、新聞、データベース等を活用するなど、図書館を活用し、生徒の学びを深める。 	教材研究に積極的に取り組んでいる教員の割合	教員アンケート8	2.9	75	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 教員の教材研究他、授業に対する様々な準備が不足していることを伺わせる。【教務】 教員の多くがPCを用いて授業をしており、教材の配布や課題提出、意見の集約や探究αなどの協働学習など、授業づくりに工夫がみられる。行事も含め生徒のクロームブックを活用する場面もだんだんと増えているが、教員間での差が感じられる。【学年】 学校生活に図書館を利用できる生徒が少し少なかった。【図書】 	<ul style="list-style-type: none"> 教員の多忙もあり、授業準備不足をうかがわせる。科目担任個人の教材研修だけでなく、教科内での情報交換、先輩教員による若手教員への日常的なアドバイス、校外で開催されている研修への積極的な参加など授業への準備時間がとれる、働き方改革も必要と考える。【教務】 ICT活用について教員間での情報共有がさらに必要であると考えている。クロームブックはさらに活用を授業や行事など様々な場面で考えたい。生徒自身も操作について自信がない生徒もいると考えられるので、個別の支援も必要だと考える。【学年】 探究学習などの授業で、図書館の活用を促すように授業担当者や連携を強める。授業のみならず、朝読書などでもさらに図書館を利用できるよう工夫していく。【図書】 	B		
				先生は授業内容が理解しやすいよう、教材等工夫をしていると感じる生徒の割合	生徒アンケート2	2.8	68	B						
				ICT機器等を活用する等、学習内容に興味関心を持つ工夫した指導が行われていると感じる生徒の割合	生徒アンケート3	2.9	73	B						
				クロームブックを積極的に活用した授業を実施している教員の割合	教員アンケート16	2.9	74	B						
				図書・情報教育推進のための働きかけが見えた」と回答した教職員の割合	教員アンケート31	3.2	91	A						
				自分の学校生活に図書館、図書資料、新聞等を利用することができる生徒の割合	生徒アンケート20	2.6	55	C						
④専門性の深化	商業	<ul style="list-style-type: none"> 検定合格者を向上させる。 一つ上を目指す資格取得に挑戦させる。 出商デパートの開催。 	商業科：3年次2月初旬までに1級3種目以上取得者数が学科の40%以上 日商簿記検定2級取得者15名以上。	校内統計	—	—	B	A	<ul style="list-style-type: none"> 商業科：3種目(36/118)31% 日簿2級18名、Iパス1名 情報処理科：3種目(9/38)24% 日簿2級3名、基本3名 Iパス1名 ※3種目について達成人数 商業科2年：31人 3年：36人 処理科2年：12人 3年：9人 	<ul style="list-style-type: none"> 2年次目標を達成する生徒が多く、3年次の任意受験の結果が伸び悩んでいる。授業での、呼びかけを強化する。 担任と取得状況の情報共有により、全体と個別の呼びかけを行う。 	A			
			情報処理科：3年次2月初旬までに1級3種目以上取得者数が学科の40%以上 基本情報取得5名 ITパス・セキュマ取得10名応用技術1名以上。	校内統計	—	—	C							
			商業の知識や技術を出商デパート（1年生はゆめタウン出雲での実習を含む）で活用できたという生徒の割合。	生徒アンケート32	3.3	87	A							
①安全意識の高揚	総務 生徒	<ul style="list-style-type: none"> 防災教育、避難訓練の実施(年3回) 街頭指導(交通安全運動週間) 自転車点検(年1回) 安全に関わる情報の周知徹底 出雲警察署との連絡・協力 	災害発生時に適切に行動し、安全に避難することができる生徒の割合	生徒アンケート6	3.3	86	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 年3回(学期に1回)の訓練を行った。それぞれの学期に目的をもって実施することができたと考えている。【総務】 生徒自身の評価は高いが、毎年苦情の連絡がある。【生徒】 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も訓練を行い生徒の避難の訓練と教職員による避難誘導の訓練を積み、安全に避難できるようにしたい。また、島根原発30キロ圏内に立地している学校として、原子力防災訓練の導入も検討したい。【総務】 『生徒指導だより』で危険箇所や規範意識の高揚を図る。【生徒】 	A			
			防災避難訓練が生徒や教職員の危機管理意識を高める機会につながっているとする教職員の割合	教員アンケート6	2.8	75	B							
			登下校時、交通ルールや自転車マナーを守っている	生徒アンケート14	3.6	95	A							

		②生徒理解に基づく組織的対応	教務 生徒 保健	<ul style="list-style-type: none"> 教育相談を充実させ、課題を抱える生徒の早期発見と適切な対応を行う。 個別の生徒の状況を把握し、必要な支援を協議して、共通理解のもとで支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者や先生、友人に悩みを相談したり、スクールカウンセラーに話を聞いてもらったりして、悩みごとに適切に対応している生徒の割合。 生徒は悩みを誰かに相談できていると感じている保護者の割合。 気になる生徒への支援を関係者と協力して行っていると考える教員の割合。 	生徒アンケート12	2.7	58	C	B	<ul style="list-style-type: none"> 支援の必要な生徒への対応と周囲の生徒への理解を求めることに時間がかかっている。【生徒】 今年度は気になると名前のあがった生徒や、相談があるとアンケートに答えた生徒について、年度当初と学期末ごとに保健相談部の面談を計画してその結果を学年会や担任と共有した。教員の声がかけてSCにつながる場合が多く、SC等に自分から申し込むものは少ないので、保健室等への来室の機会に声をかけて、相談しやすい雰囲気を示していく必要がある。【保健】 	<ul style="list-style-type: none"> 『自立活動』（増単位）の実施を検討する必要があると考える。【生徒】 保健相談部による定期面談を充実させる。 月1程度の相談日を設けて、希望者の相談を聞く窓口としての機会を設ける。 学年会、担任、SCやインクルーシブ拠点校と連携して対応していくとともに、関係機関との連携について保護者への情報発信をする。【保健】 学校に来にくい生徒への支援として、遠隔授業の活用など、文部科学省の指針に基づき様々な支援を行う体制を検討し、可能なところから実施する。【教務】 	B	<ul style="list-style-type: none"> 気になる生徒への支援を関係者と協力して行っていると考える教員の割合が高い評価であることに對し、保護者や先生、友人に悩みを相談したり、スクールカウンセラーに話を聞いてもらったりして、悩みごとに適切に対応している生徒の割合が低いのは、悩みを持って相談を行いたいと考えている生徒への対応が十分ではないため、普段から面談等により生徒の話聞く機会を充実させてほしい。 	
『自立・自律できる人間の育成』①課題発見・解決のために主体的に考え行動できる生徒 ②ビジネスマナーやコミュニケーション能力を身に付け、他者と共同でできる生徒の育成 ③地域や人を愛し、自己有用感・自己肯定感を抱ける生徒の育成	進路実現に向けた支援	①明確な進路目標の決定	進路	<ul style="list-style-type: none"> 年間行事予定に沿って企業説明会・進路ガイダンスを実施する。また、希望者対象ガイダンス等を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 第2回進路希望調査による進路希望未決定者の割合（1年生：20%未満 2年生：10%未満） 	校内統計	1年	13	A		A	<ul style="list-style-type: none"> 1年生は大学見学、1、2年生では進路学習などで、将来について考えることができた。 年間計画にない「大学生との進路懇談会」では参加した2年生の希望者は大学生から刺激を得ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 担任の先生方には生徒や保護者との丁寧な面談をしていただいた。LHRなどを活用し、進路について考える機会を設ける。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 適切な進路情報が提供されていると感じている保護者の割合が低く評価されているが、さまざまな進路にかかわる活動が行われているので、進路にかかわる活動や学校からの上り提供が保護者にきちんとつたわるような取り組みをおこなってほしい。
		②望ましい職業観の育成と学年段階に即したキャリア計画の実施	進路	<ul style="list-style-type: none"> 進路集会、LHR等で計画的・継続的な進路指導の実施 教職員全員での小論文指導、面接指導の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 進路集会、LHRなどの機会を通して企業情報、求人情報や入試情報など、進路決定に必要な情報が提供されていると感じる生徒の割合 入学・採用試験に向けて小論文・面接指導を適切に実施していると感じている教員の割合 個に応じて適切な進路指導が実施されていると感じる保護者の割合 	生徒アンケート9	3.0	75	B			B	<ul style="list-style-type: none"> 3年生の小論文、面接指導については先生方には大変お世話になりました。ありがとうございました。7月に担当の割り振りをしたが、動き出すのが遅い生徒もいて、十分な指導ができなかった生徒もいた。 年間計画になかった小論文指導研修会に多くの先生方が参加し、小論文指導に活用していただいた。 	<ul style="list-style-type: none"> 1、2年生については、学年部と連携を取り、進路に関するLHRの年間計画を4月に立て、実行する。 3年生については、進路実現に向けて、早めに動き出す働きかけをしたい。 	B
		③進路情報の提供と活用	進路	<ul style="list-style-type: none"> 情報冊子（面接、小論文等）の選定・購入・利用を薦める。進路通信等を活用し、生徒・保護者に求められている情報を迅速に提供する。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路決定に必要な情報が提供され、自己の進路について深く考えるようになった生徒の割合 適切な進路情報が提供されていると感じている保護者の割合 	生徒アンケート10	3.0	75	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 「進路の手引き」を生徒に配布しているが、保護者がその存在を知らないことが考えられる。就職については2年生希望者にHandyへの登録を勧めた。 		<ul style="list-style-type: none"> 「進路の手引き」を生徒ポータル等で掲載し、面談等で周知し、保護者とともに生徒の進路を考える一助としたい。 	B	
		学校と地域との協働	①魅力化コンソーシアムと学校運営	魅力	<ul style="list-style-type: none"> 地域の方や外部指導者と連携をした授業展開をコーディネートする。 身の回りの課題に気づき、課題解決をしようとする生徒を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「地域の課題解決法について考える」認識70% 地域の魅力や資源、課題について考えることがあった生徒の割合 	魅力化アンケート		54		C		<ul style="list-style-type: none"> コンソーシアム役員の方々に協力していただき、βの講師派遣を実現することができた。 地域課題をテーマとして探究活動を行ったので地域のことを考えるきっかけを作ることができた。アンケートの結果もC評価ではあるものの昨年より10ポイントアップした。 	<ul style="list-style-type: none"> 魅力化アンケートを7月にやっているのですが、できれば年度末にも行い認識がどう変化したかをリサーチしたいが、行事が多く時間の確保が課題である。また、他教科でも地域課題に触れる機会があるとよいのではないかと。 	<ul style="list-style-type: none"> オープンスクールに多数の中学生在参加していることは本校の魅力を表す良い数値である。
			②小中学校との連携	総務	<ul style="list-style-type: none"> オープンスクールを開催し、本校の魅力を感じてもらおう。 	<ul style="list-style-type: none"> オープンスクール参加者が募集定員の2倍を上回るようPRする。 	校内統計	—	夏 302 秋54	A	<ul style="list-style-type: none"> 夏のオープンスクールの事後アンケートで「参考になった」との回答が約97%を超えた。内容を含め、本校の魅力が発信できたと考えている。 		<ul style="list-style-type: none"> 今後とも、HPやInstagram等を利用しての情報発信に努める。また、本校が行っている様々な校外活動を通じて本校の魅力アピールしていきたい。 		
		次年度へ向けての準備	①新しい学習基盤づくり	教務	<ul style="list-style-type: none"> 3観点別評価や中間試験の実施について、各教科及び学校全体で議論を深め、本校が掲げる人材の育成するための体制を確立する。 	<ul style="list-style-type: none"> 3観点評価や中間試験の実施等について、教科会、教科主任会を通じて十分な情報提供や議論がされているがされていると考える教員の割合 特別活動の評価のあり方について、議論がされて実施していると感じる教員の割合。 	教員アンケート15	2.4	53	C	D	<ul style="list-style-type: none"> 教科主任会が放課後に設定されていることもあり、開催毎週開催することができなかった。このこともあり、昨年度より開催数が減少したことが、様々なことを議論し情報共有することができなかった原因と考え、反省している。【教務】 「α」は学年部、「β」は担当者会議を通して打ち合わせを行ってきたが、具体的な生徒支援の在り方や指導内容について十分に共有することができなかった。また、αβともに担当以外の教員との共通理解が乏しかった。関係部署との連携も十分に先を見越して行うことができなかった。【魅力】 	<ul style="list-style-type: none"> 可能な限り教科主任会を授業時間に計画し、毎週実施。また、中間試験の廃止については、試験廃止が目的ではなく、単元テスト等により、生徒の切れ目ない学習が目的であり、目的達成のための手立てとして先生方の理解を求めていきたい。【教務】 魅力化推進委員会の開催を増やし、先生方へ経過報告し一層の周知を図る。 探究活動の展開について今年度を振り返り、来年度の展開や教員支援の在り方についてさらに検討する。【魅力】 	C	<ul style="list-style-type: none"> 新しい学習指導要領や探究学習の新たに取り組みについて、運用面で課題が見受けられるので、改善を進め、来年度は良い取り組みを行ってほしい。
	特活委			<ul style="list-style-type: none"> 特別活動の評価のあり方について議論を深め、評価体制を構築する。 	<ul style="list-style-type: none"> 1・2年生「α」「β」が共通理解のもと実施されていると感じる教員の割合。（「α」「β」は探究的な学びの時間） 	教員アンケート39	2.3	33	D						
	魅力			<ul style="list-style-type: none"> 「総合的な探究の時間」の実施計画と体制を構築する。 	<ul style="list-style-type: none"> 1・2年生「α」「β」が共通理解のもと実施されていると感じる教員の割合。（「α」「β」は探究的な学びの時間） 	教員アンケート17	2.2	35	D						

※「平均」欄は、評価（あてはまる＝4 ある程度あてはまる＝3 あまりあてはまらない＝2 あてはまらない＝1）を平均したもの

※「評価」欄の基準は肯定的評価の％：A＝80％以上 B＝65～79％ C＝50～64％ D＝50％未満